

上北沢地区防災計画

[令和7年修正]

上北沢地区

【上北沢地区防災計画作成団体】

(順不同)

上北沢 1 丁目自治会	上北沢町会
八幡山町会	都営八幡山アパート自治会
上北沢第一コーポラス自主防災組織	上北沢地区民生委員児童委員協議会
日赤奉仕団上北沢分団	八幡山愛友会
八桜会	上北沢幸友会
上北沢共栄会	上北沢中央商店会
八幡山八栄会	八幡山商福会商店街振興組合
成城消防団(第3分団)	世田谷消防団(第17・18分団)
上北沢小学校避難所運営委員会	八幡山小学校避難所運営委員会
上北沢小学校PTA	八幡山小学校PTA
上北沢小学校おやじの会	八幡山小学校おやじの会
上北沢地域社会福祉協議会事務所	上北沢あんしんすこやかセンター

目 次

1 上北沢地区の特性	上北沢-1(-900-)
(1)自然特性	上北沢-1(-900-)
(2)社会特性	上北沢-2(-901-)
(3)地域危険度	上北沢-4(-903-)
(4)被害想定	上北沢-5(-904-)
(5)防災資源一覧	上北沢-8(-907-)
(6)防災資源マップ	上北沢-9(-908-)
(7)区民アンケート	上北沢-10(-909-)
2 各団体の防災活動～現在の取組状況～	上北沢-19(-918-)
3 上北沢地区の課題と取り組み	上北沢-24(-923-)
(1)初期消火	上北沢-24(-923-)
(2)負傷者等の救出、救護	上北沢-25(-924-)
(3)自助	上北沢-26(-925-)
(4)要配慮者の避難支援	上北沢-27(-926-)
(5)安否の確認	上北沢-28(-927-)
(6)他団体や組織との調整	上北沢-28(-927-)
(7)避難所の立上げ	上北沢-29(-928-)
(8)給食、給水の調達	上北沢-29(-928-)
(9)必要な物資の把握、調達	上北沢-29(-928-)

1. 上北沢地区の特性

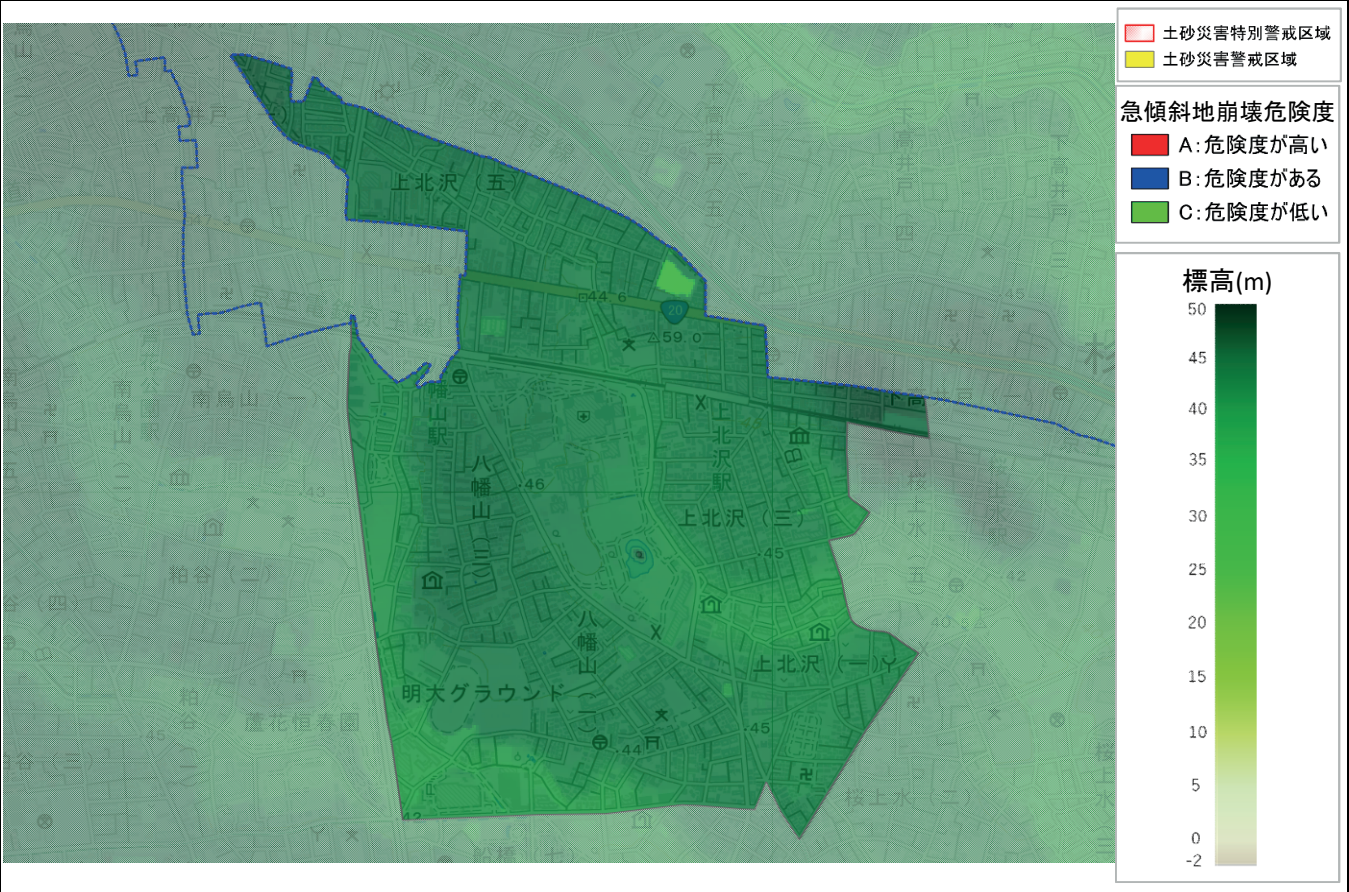
(1)自然特性

面積	1.72	Km ²	最高標高	48.7	m	最低標高	31.9	m
----	------	-----------------	------	------	---	------	------	---

位置



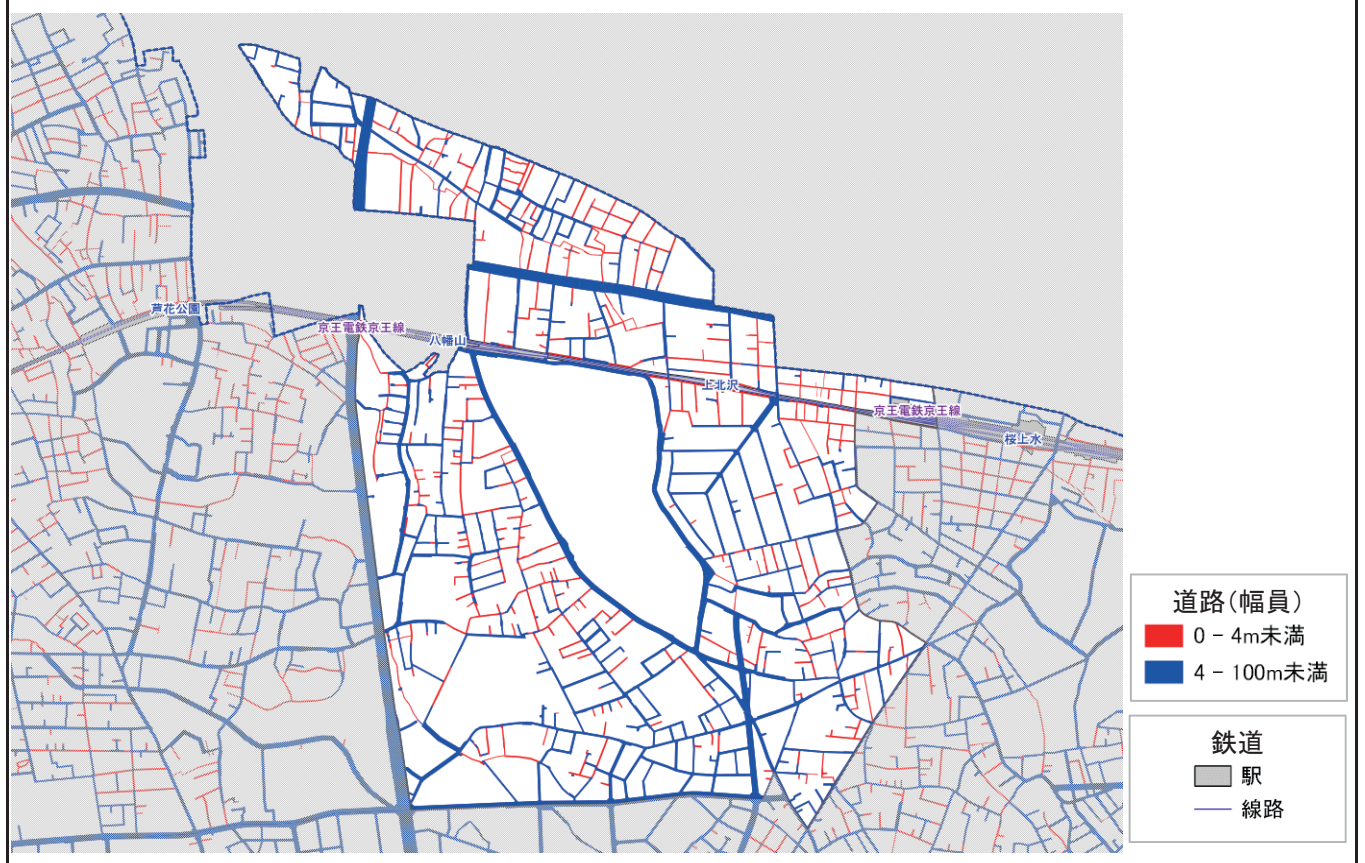
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

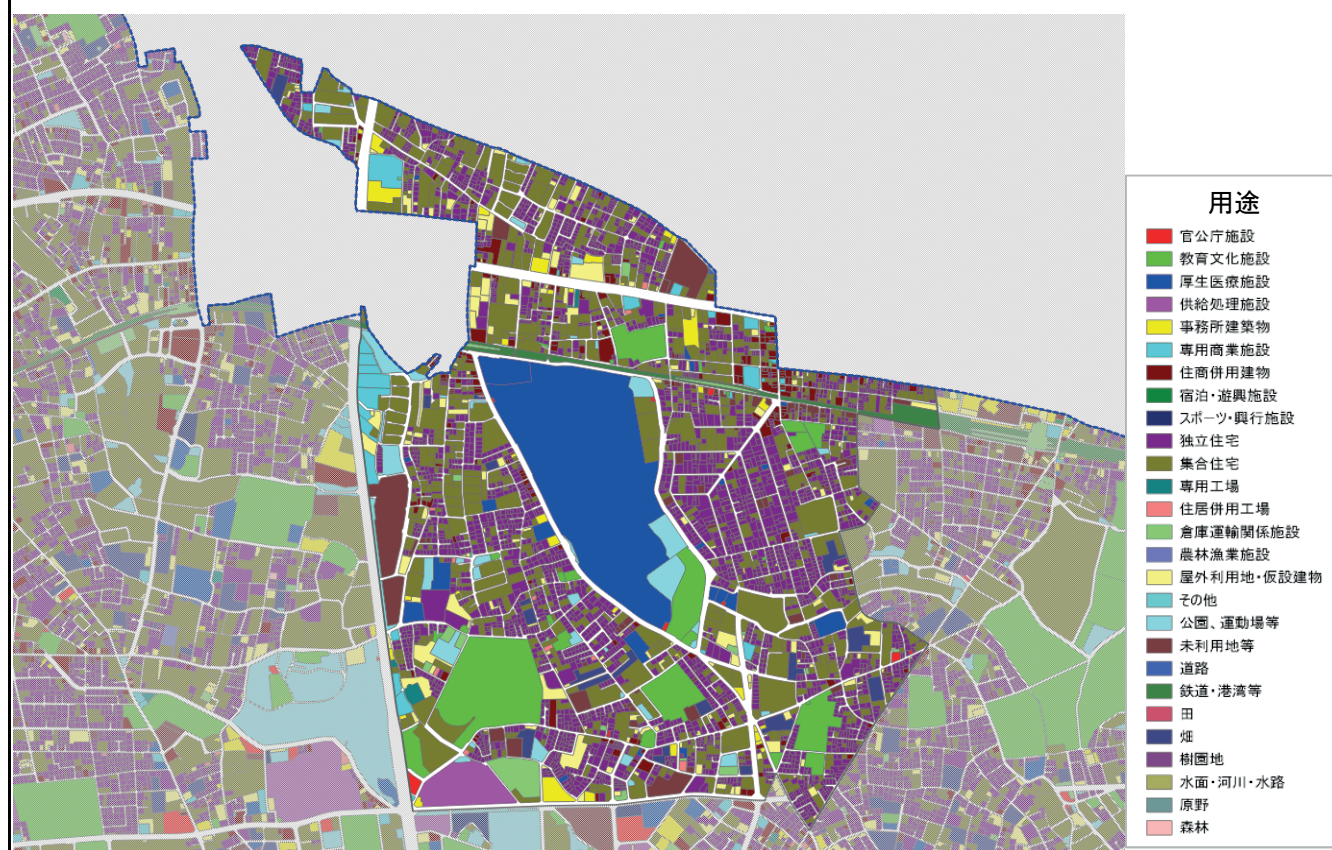
人口	24,415	人	細街路率	38.2	%	
世帯数	13,881	世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	46.0	棟/Km ²	
1世帯あたり	1.76	人	耐火率(建築面積ベース)	65.8	%	
若年層数(15才未満)	2,537	人	土地利用(宅地)	72.5	%	
若年層率(15才未満)	10.4	%	土地利用(宅地以外)	27.5	%	
高齢者数(65才以上)	5,227	人	鉄道駅	京王線上北沢駅 八幡山駅		
高齢者率(65才以上)	21.4	%				
昼間の人口	20,805	人	産業	商業	65.4	%
夜間の人口	26,538	人		工業	16.1	%
昼夜間人口比	0.78	-		農業	18.6	%
町会・自治会数	4	-				

道路・公共交通機関



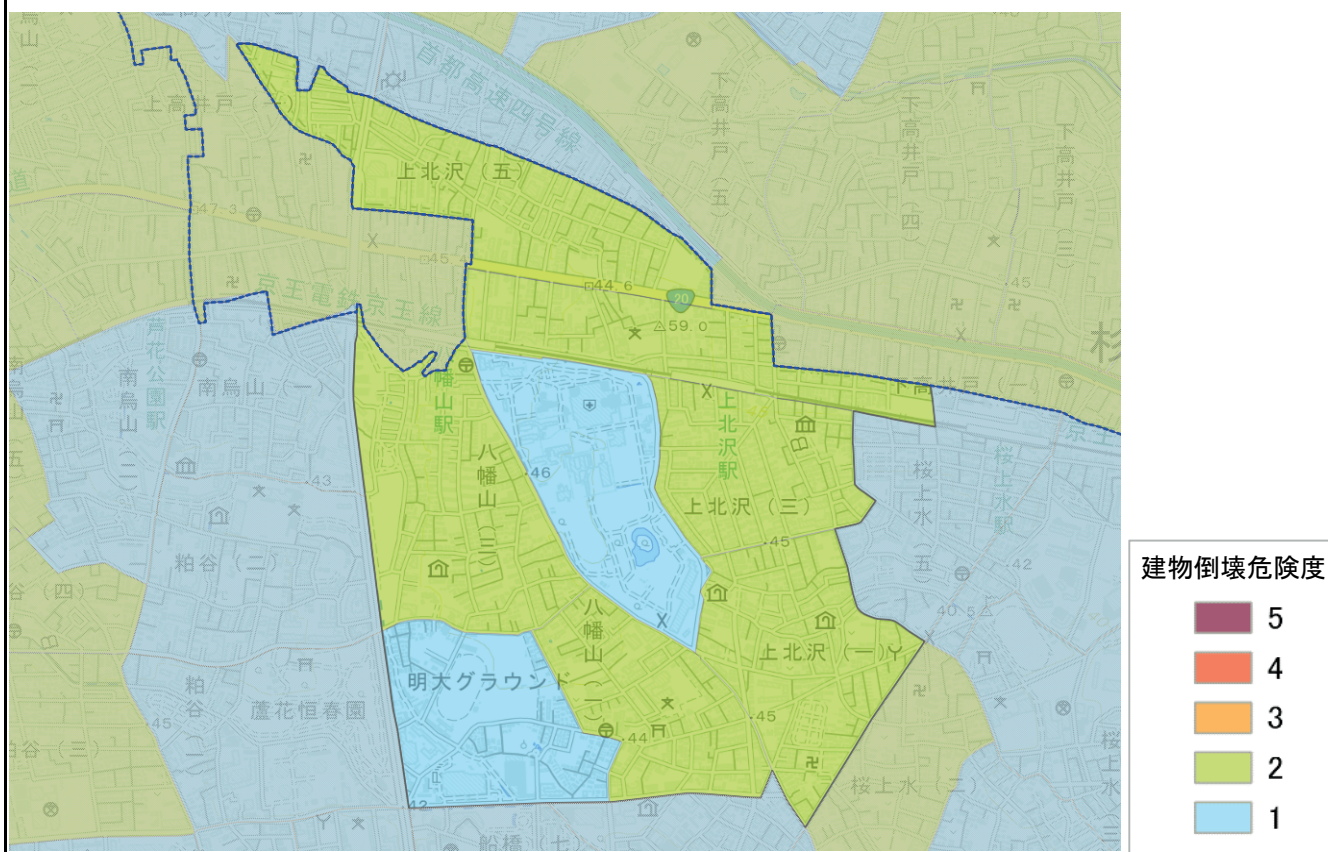
(2)社会特性

産業

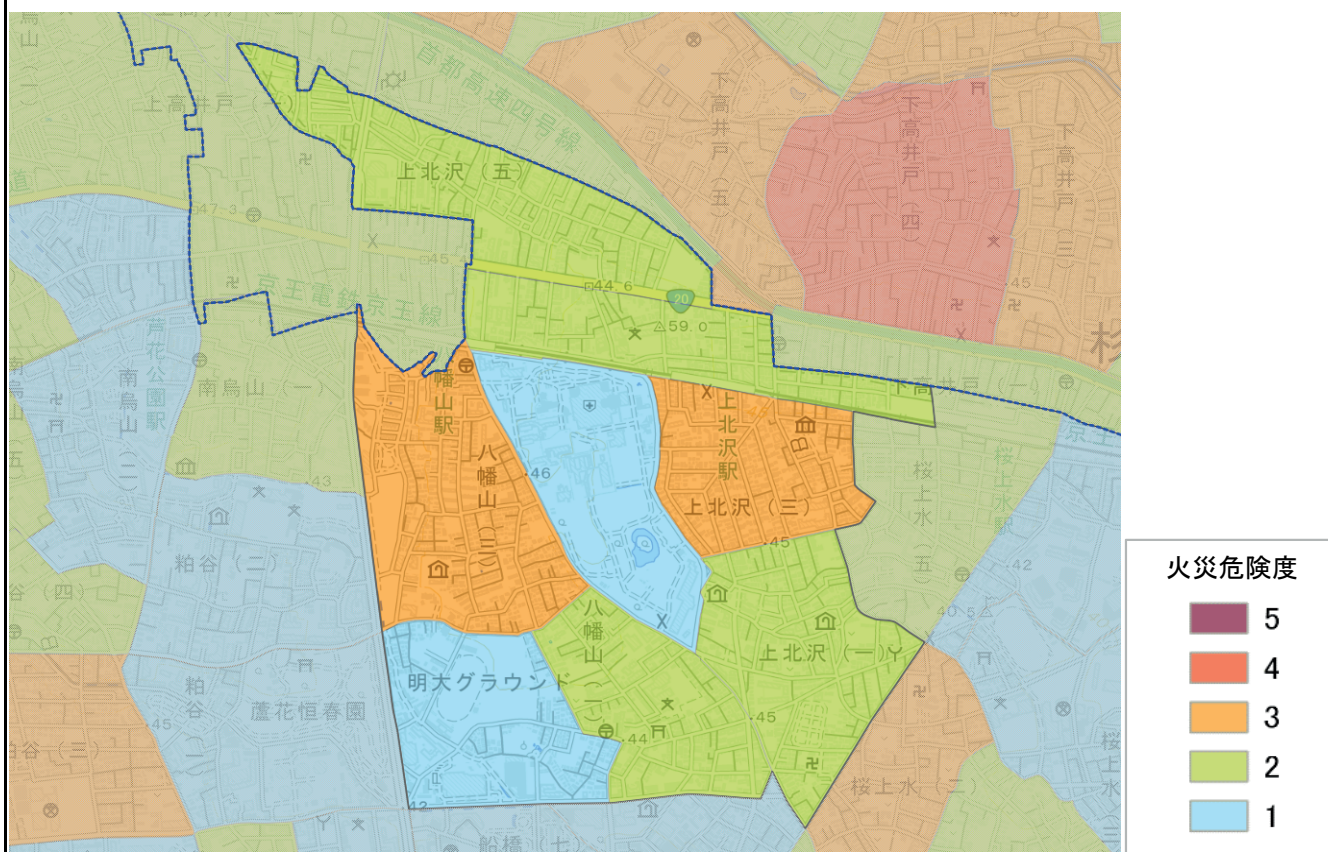


(3)地域危険度

建物倒壊危険度



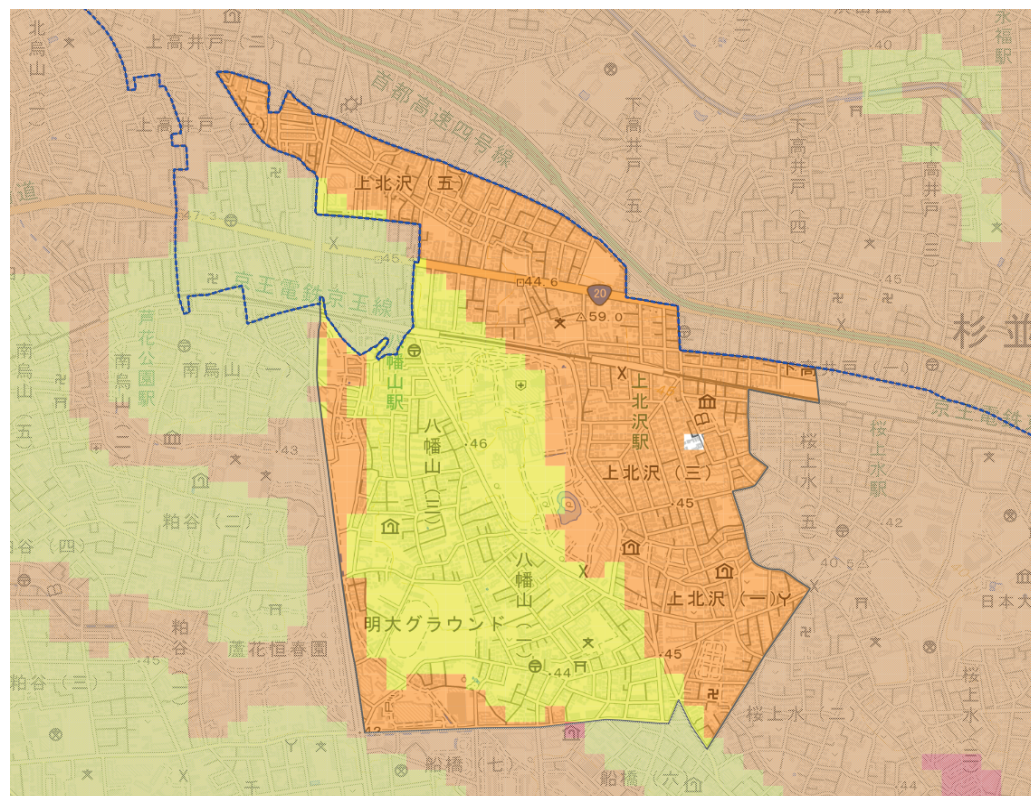
火災危険度



(4)被害想定

全壊棟数	97 棟	死者	14 人
半壊棟数	311 棟	負傷者	160 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	550 棟	うち重傷者	27 人

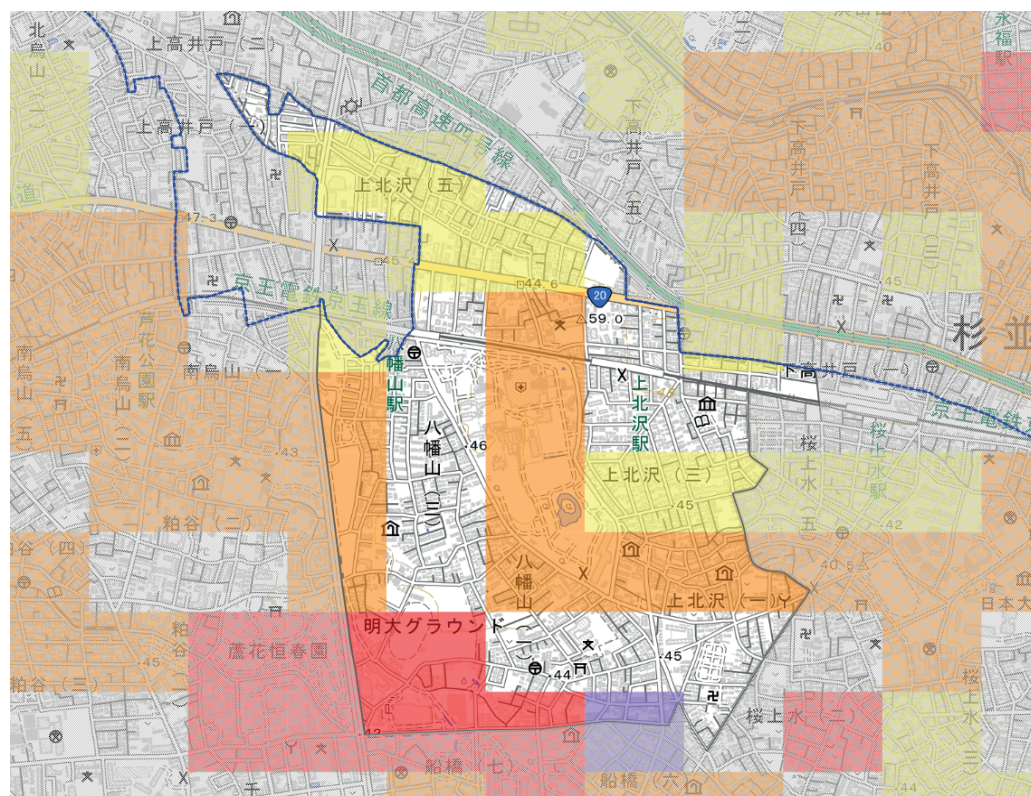
震度分布



震度

- 震度7
- 震度6強
- 震度6弱
- 震度5強
- 震度5弱
- 震度4
- 震度3以下

液状化分布

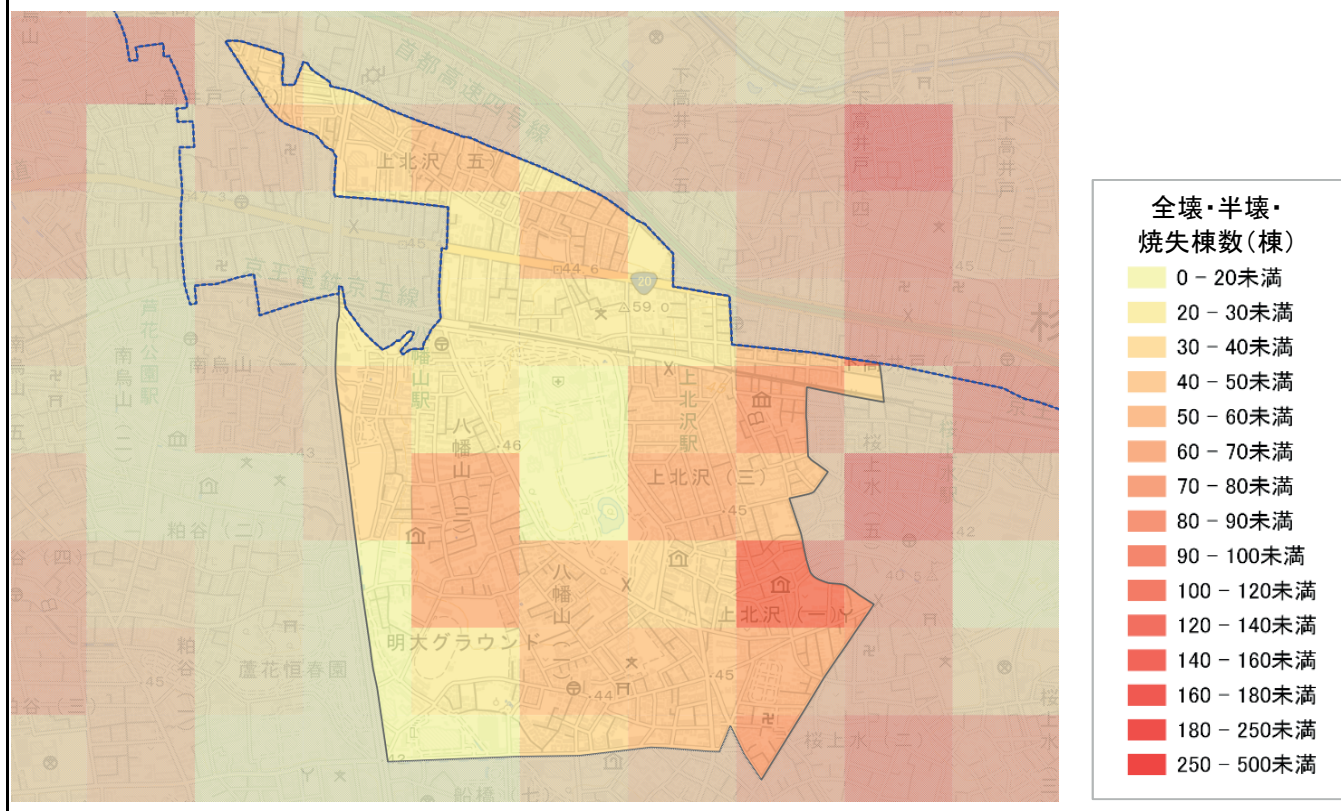


液状化危険度

- $15 < PL$
- $5 < PL \leq 15$
- $0 < PL \leq 5$
- $PL = 0$

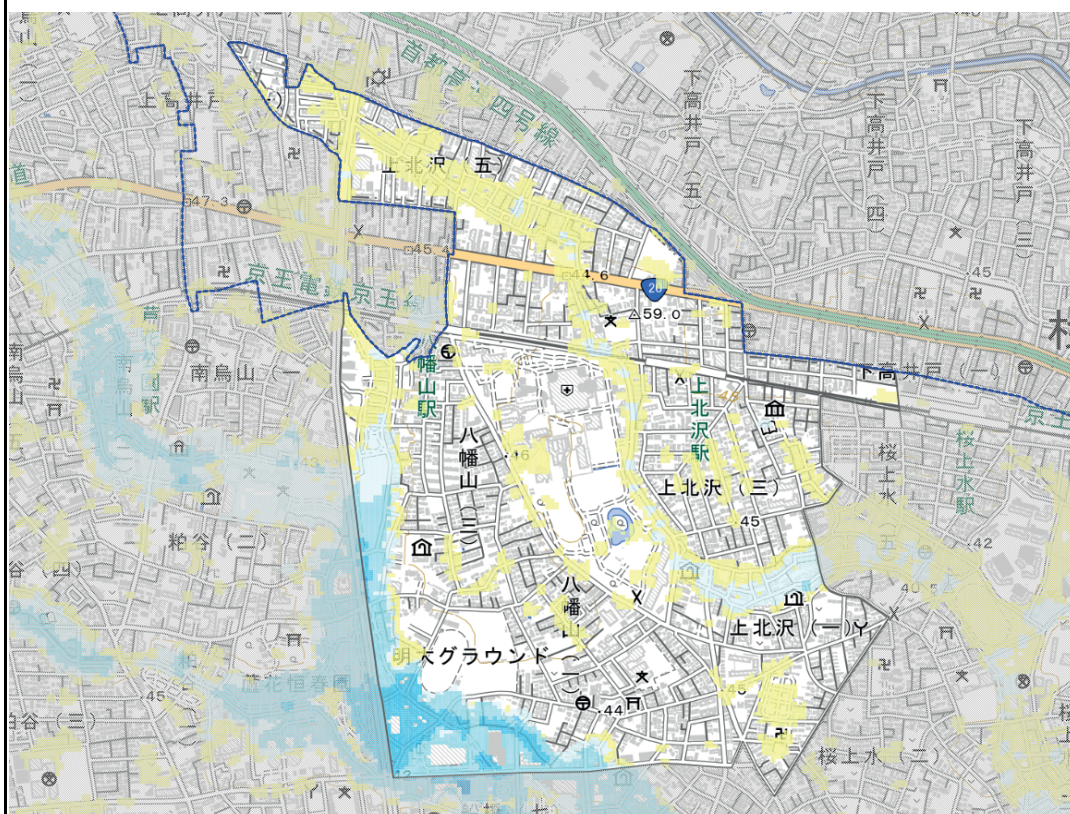
(4)被害想定

被害棟数分布

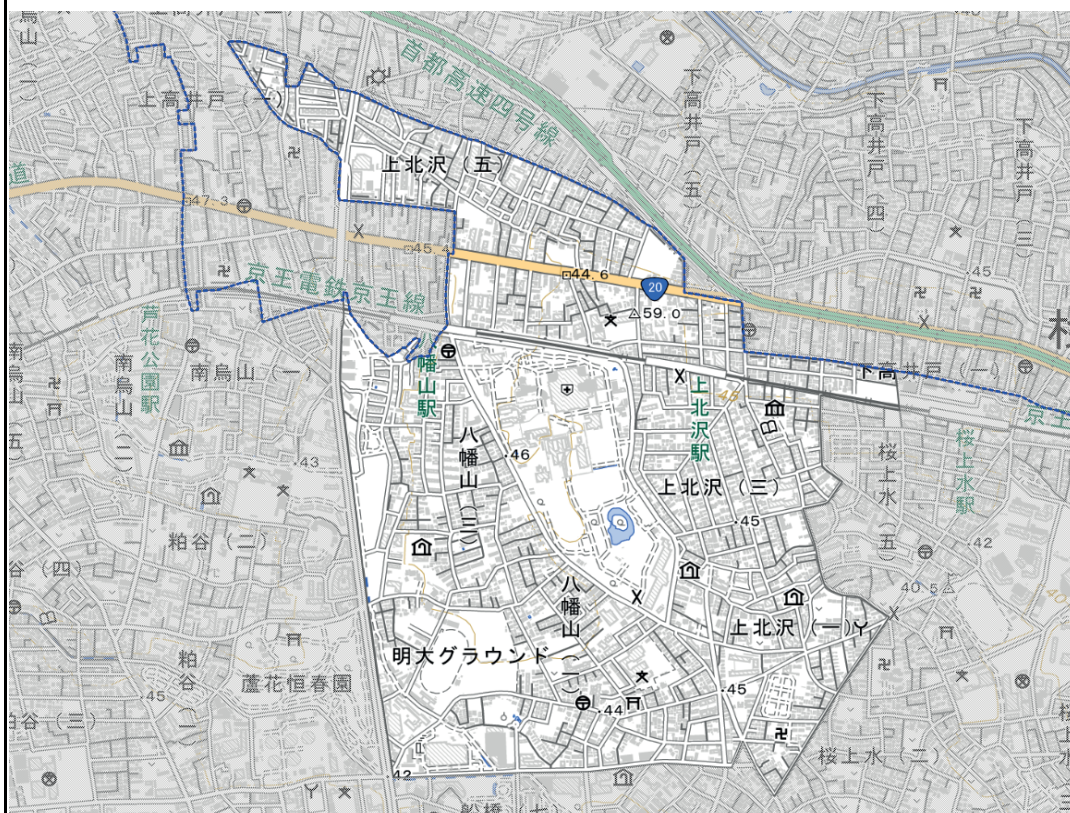


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



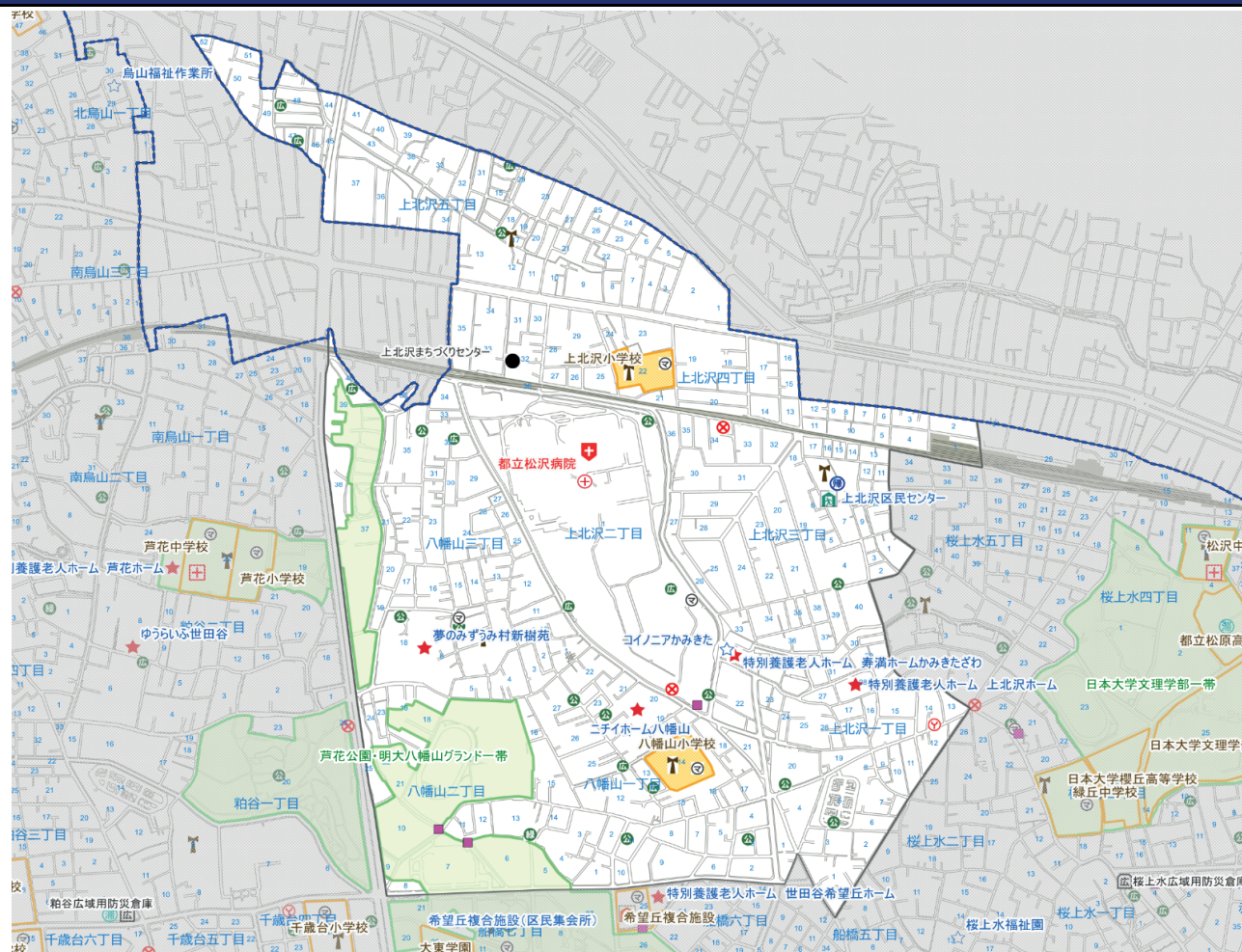
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	芦花公園・明大八幡山グラウンド一帯				
一時集合所	区立きんもくせい広場 区立將軍池広場 区立上北沢5丁目公園 区立八幡山3丁目公園 上北沢公園 上北沢小学校 上北沢地区会館敷地 都営八幡山アパート内小広場 八幡山公園 八幡社境内 明大八幡山グラウンド 八幡山小学校 八幡山はらっぱ広場				
指定避難所	上北沢小学校 八幡山小学校				
予備避難所					
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホーム上北沢ホーム 特別養護老人ホーム寿満ホームかみきたざわ ニチイホーム八幡山 夢のみずうみ村新樹苑				
福祉避難所(障害者)	コイノニアかみきた				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	上北沢区民センター				
土砂災害時避難所					
避難所救護所					
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院	都立松沢病院				
緊急医療救護所	都立松沢病院				
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設		1	ヶ所
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	4	防災行政無線塔	5	緑地	1 ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	上北沢地区会館 千歳清掃工場付近路上 明大八幡山グラウンド付近路上				
警察署・交番	上北沢駅前交番 八幡山駐在所				
消防署・出張所	上北沢出張所				

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ◎ 総合支所 | 〇 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | 〇 指定避難所 |
| Ⓢ セたがや災害ボランティアセンター | 〇 予備避難所 |
| Ⓜ 広域用防災倉庫 | 〇 福祉避難所(母子) |
| 🚰 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| 📡 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| 🚻 マンホールトイレ | 🏠 水害時避難所(第1次) |
| 🏠 土のうステーション | 🏠 水害時避難所(第2次) |
| 🚓 警察署 | 📍 野川・仙川洪水時避難所 |
| 🚓 交番 | 📍 水害時避難所(狛江市) |
| 🚒 消防署 | 📍 水害時避難所(調布市) |
| 🚒 消防出張所 | 📍 土砂災害時避難所 |
| 📍 身近な広場 | 🏠 避難所救護所 |
| 📍 公園 | 🏠 東京都災害拠点病院 |
| 🌳 緑地 | 🏠 東京都災害拠点連携病院 |
| | 🏠 緊急医療救護所 |
| | 🏠 一時滞在施設 |
| | 🏠 帰宅困難者支援施設 |
| | 🏠 ボランティアマッチングセンター |
| | 🚚 輸送拠点等 |
| | 🚚 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(上北沢地区)

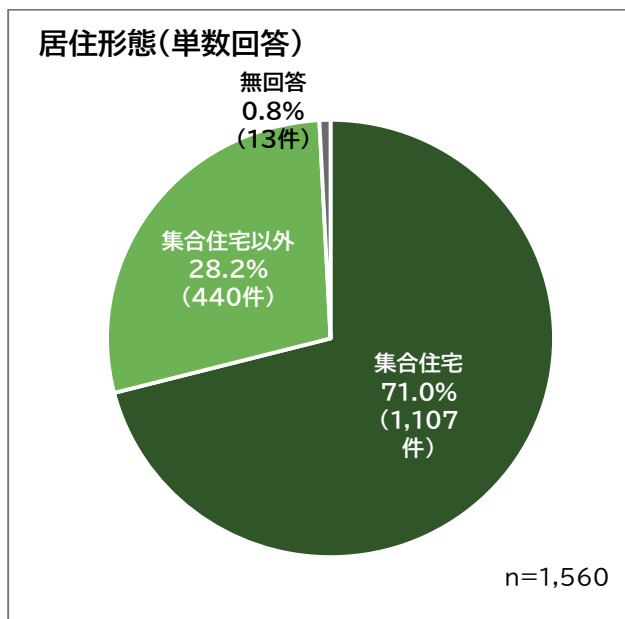
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

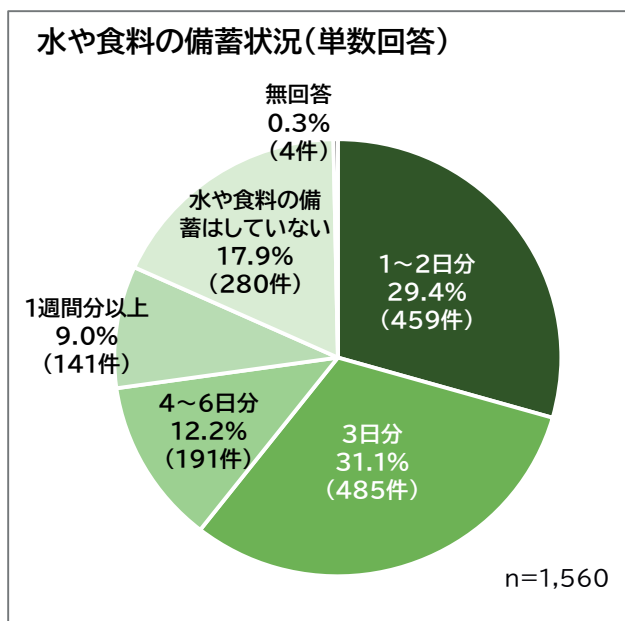
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



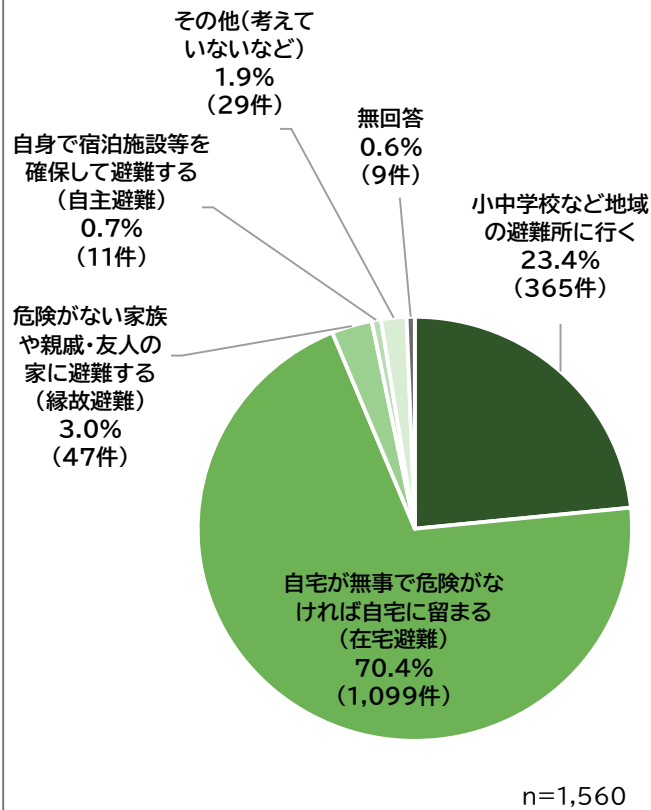
(7)区民アンケート(上北沢地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

震度6強の地震発生時の避難行動(単数回答)



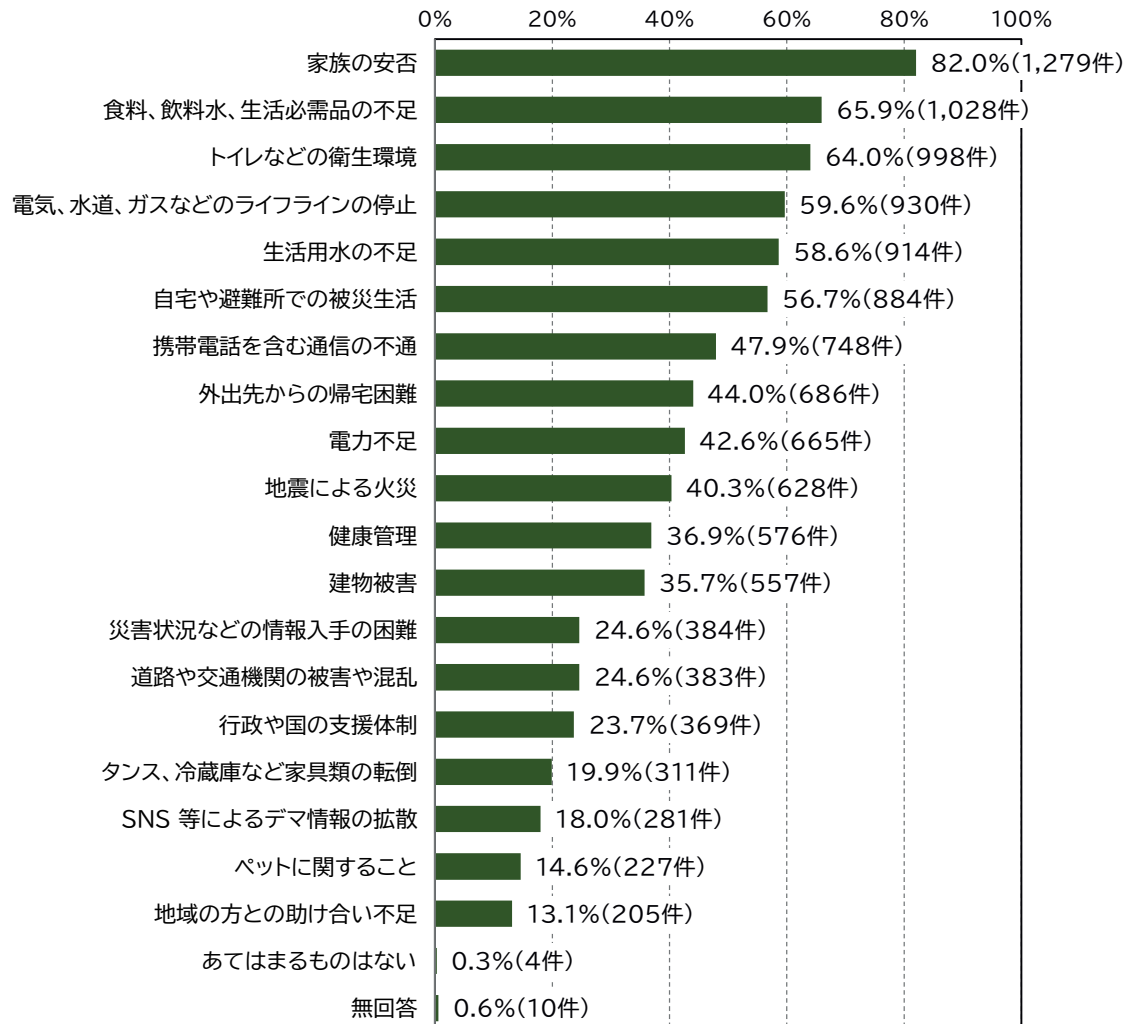
(7)区民アンケート(上北沢地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=1,560

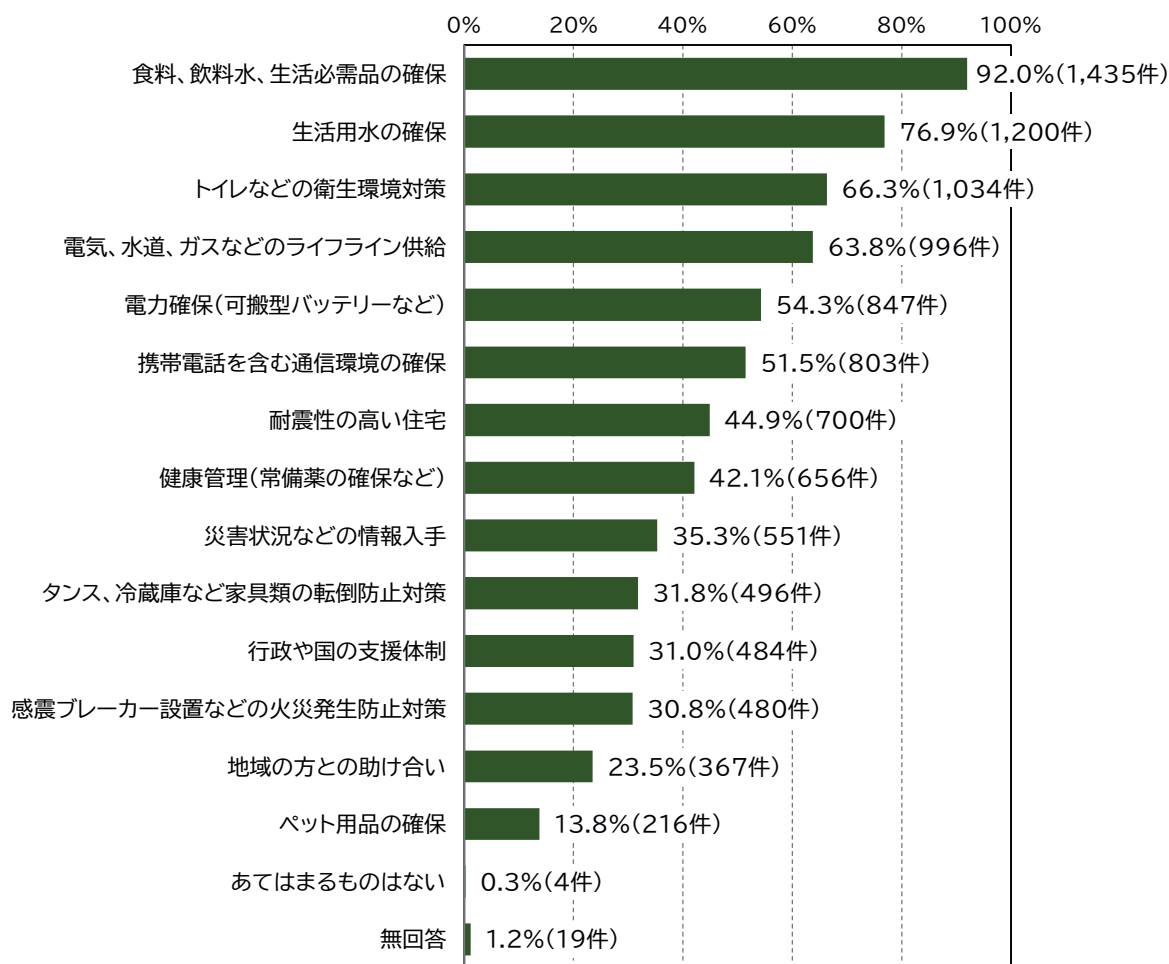
(7)区民アンケート(上北沢地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=1,560

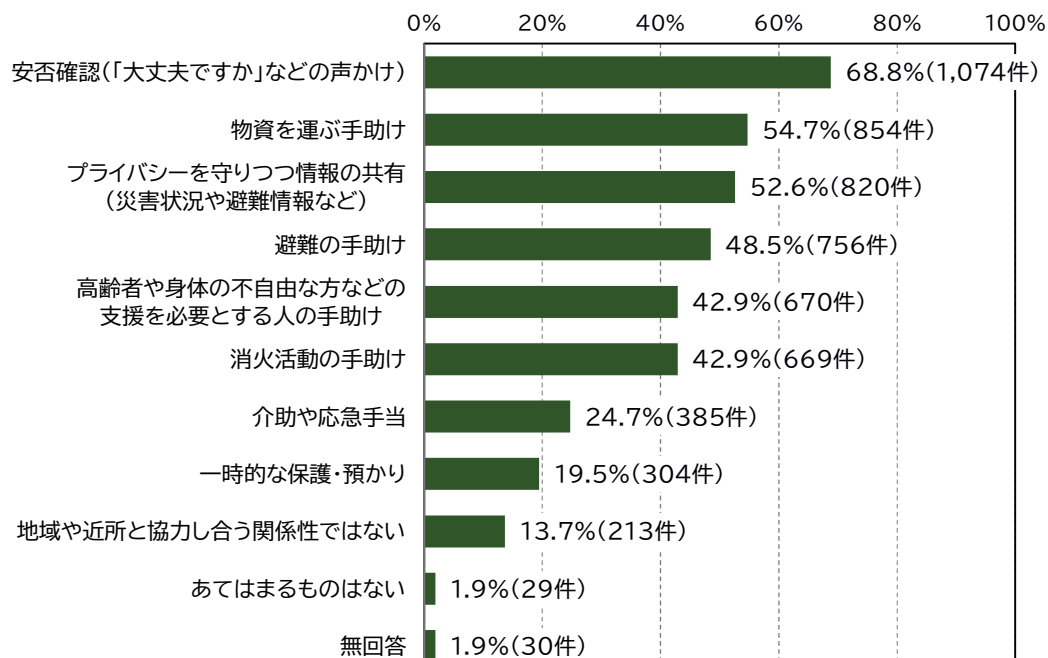
(7)区民アンケート(上北沢地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

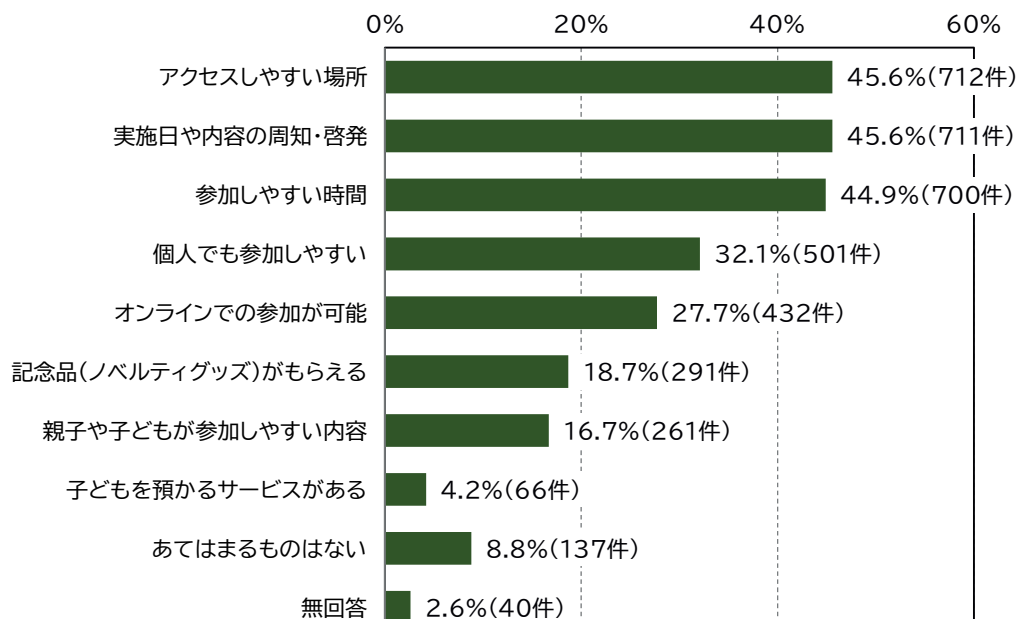


n=1,560

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



n=1,560

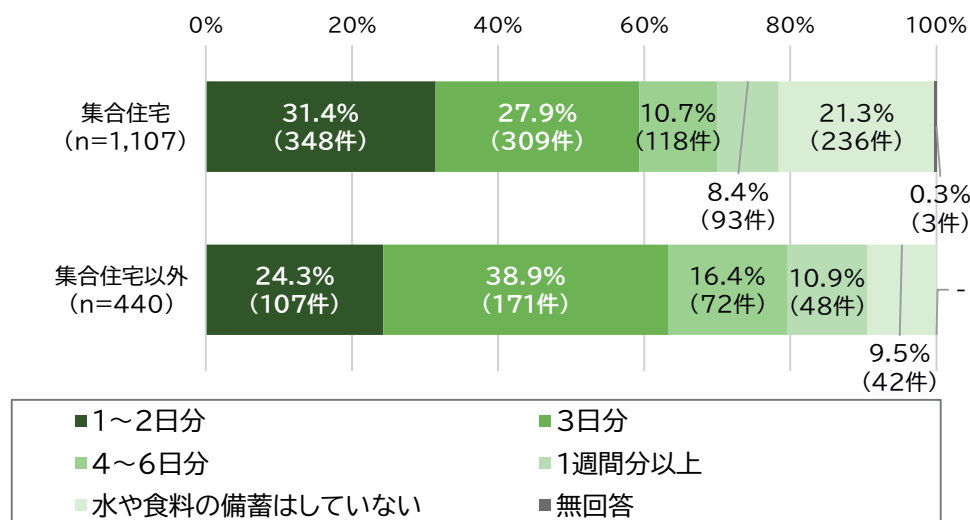
(7)区民アンケート(上北沢地区)

クロス集計(1/4)

水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

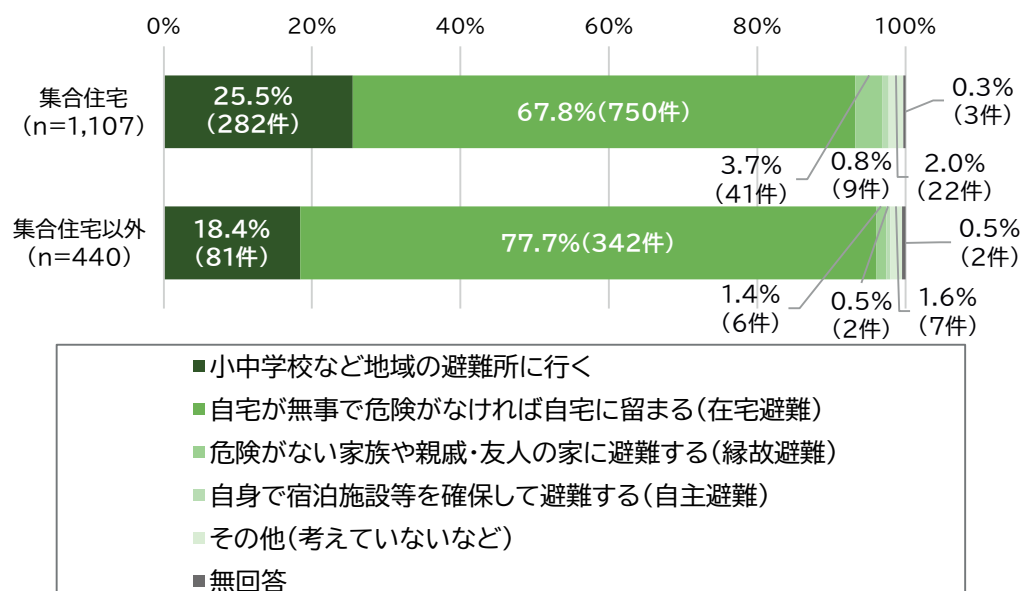
【居住形態別】水や食料の備蓄状況(単数回答)



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

【居住形態別】震度6強の地震発生時の避難行動(単数回答)



(7)区民アンケート(上北沢地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

【居住形態別】災害時の心配ごと(複数回答)



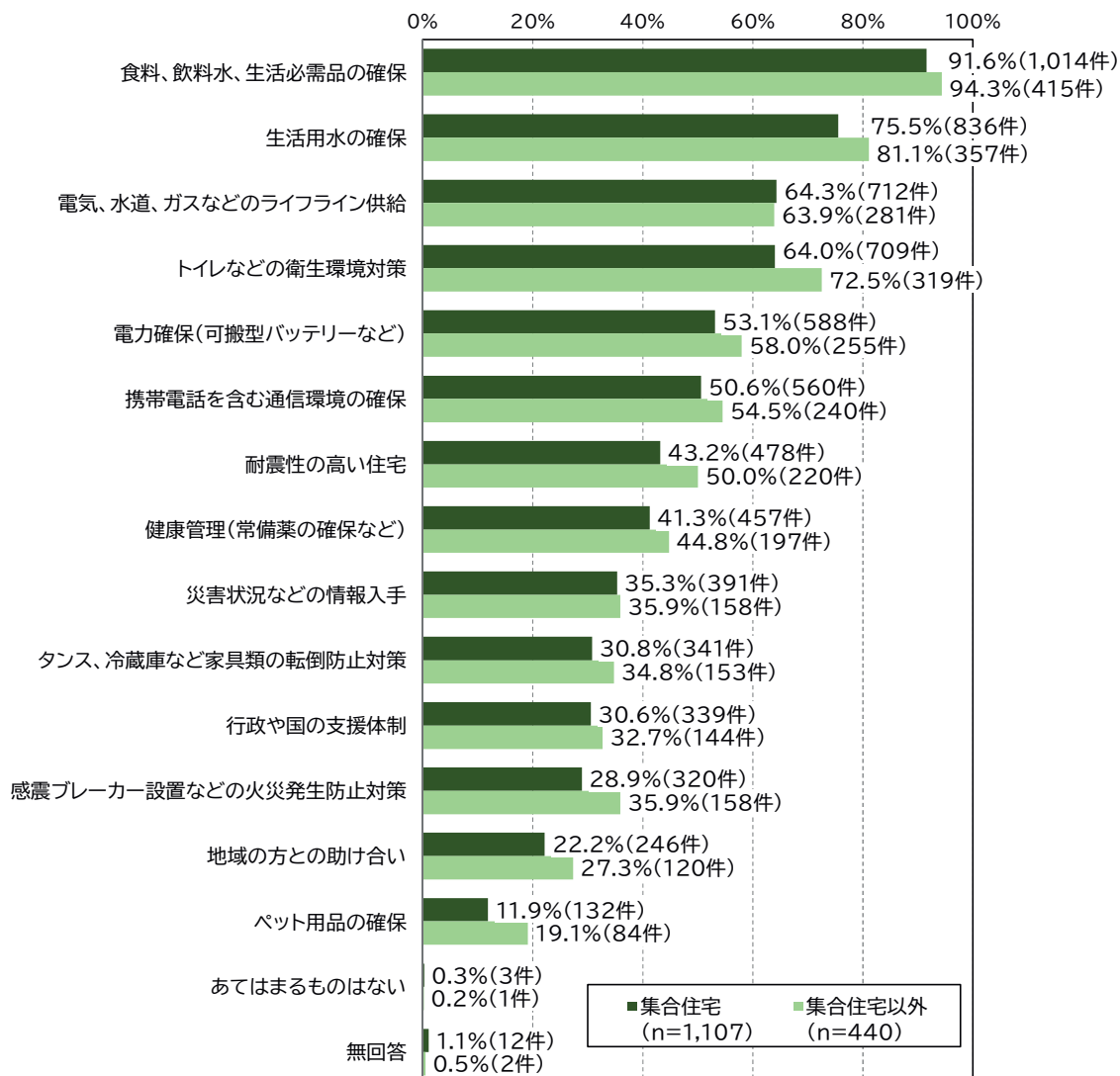
(7)区民アンケート(上北沢地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



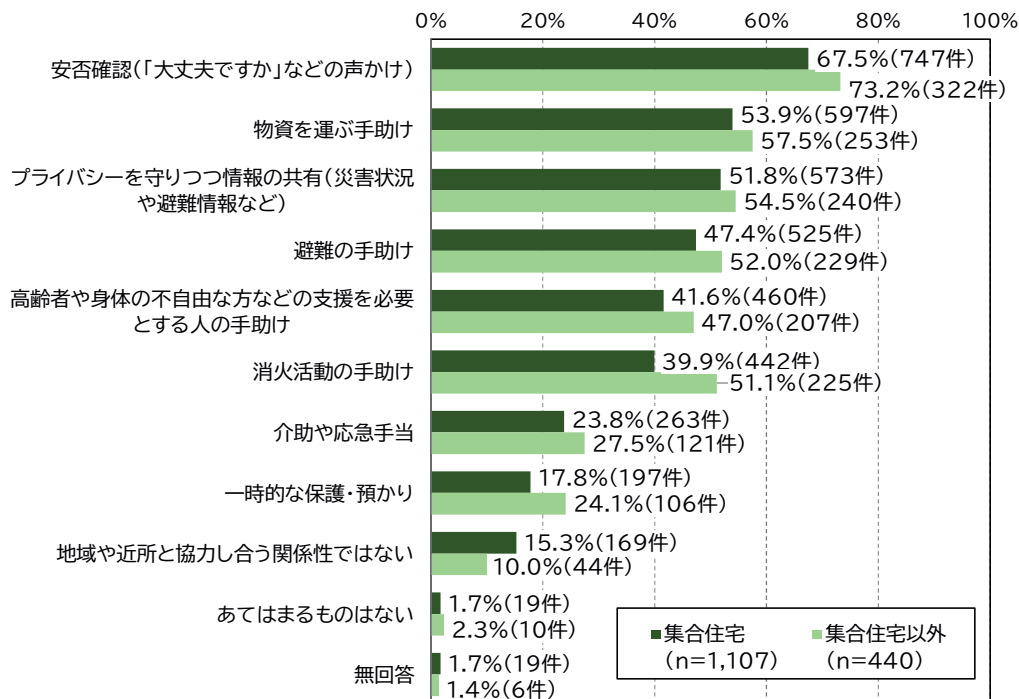
(7)区民アンケート(上北沢地区)

クロス集計(4/4)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

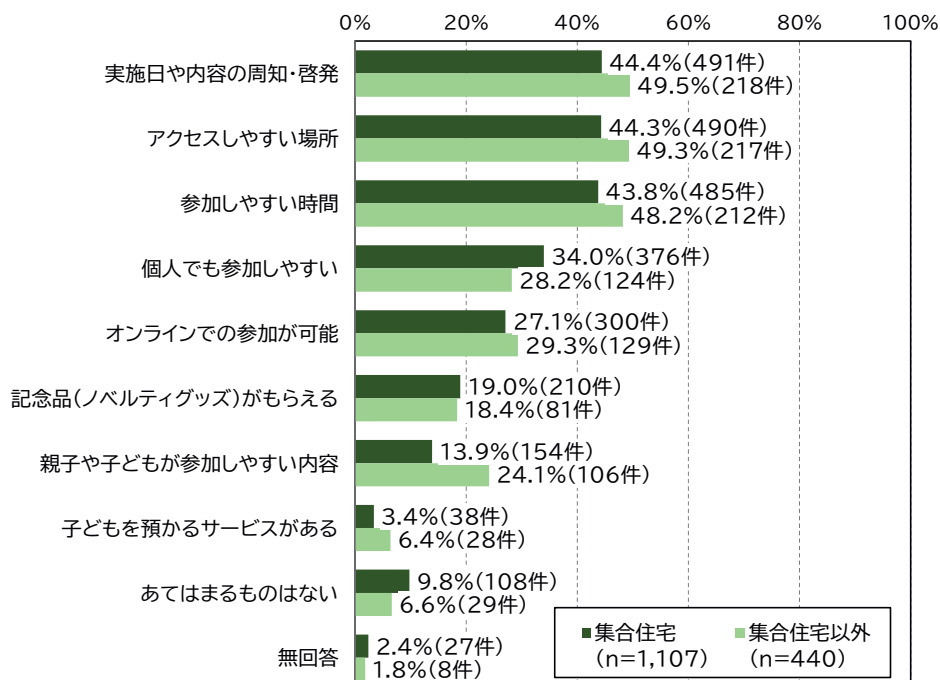
【居住形態別】災害時にできる住民同士の支援(複数回答)



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

【居住形態別】防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備							
		実施している	実施していない	会議名	実施回数 (年間)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器	
										数量	場所	数量	場所	数量	場所
都営八幡山アパート自治会	10		○			○		○				2	自治会倉庫	39	各棟の階段
上北沢第一コーポラス自主防災組織	3		○			○		○						8	8階までの各階毎
上北沢1丁目自治会	3		○			○		○		1	防災用倉庫	1	防災用倉庫		
八幡山町会	10	○		八幡山町会会議	数回	○		○				2	八幡山町会防災倉庫	5	八幡山町会防災倉庫
上北沢町会	3		○			○		○		1	上北沢公園倉庫	2	上北沢3丁目倉庫1台 5丁目1台		

団体名	消火資機材の配備		防災訓練等の実施										防災マップ												
	その他		実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報										
	名称	場所			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集会所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他			
都営八幡山アパート自治会			○		1	小公園	1	自治会集会所						○											
上北沢第一コーポラス自主防災組織			○		1	コーポラス1階							○												
上北沢1丁目自治会	水槽		○			上北沢地区会館前 防災倉庫前					○				○	○	○	○	○		○				
八幡山町会			○			八幡山小学校、上北沢小学校、明大八幡山グラウンド	1	上北沢まちづくりセンター			○				○	○	○								
上北沢町会			○		1	上北沢小学校							○												

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定 (区を除く)			災害時連携・協定 (区を除く)		避難行動要 支援者協定				避難行動要支援者対策				連絡手段の確保		
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	見守り活動	日頃からの要支援者体験	その他	特に実施していない	簡易無線	作成・整備	連絡網の	その他
都営八幡山アパート自治会		○		○			○			○			○							特になし
上北沢第一コーポラス自主防災組織		○		○			○					○				○				各自携帯電話活用
上北沢1丁目自治会	0		1				○			○					年2回訪問	○				特になし
八幡山町会		○		○			○			○			○							特になし
上北沢町会	2		1				○			○			○							特になし

団体名	防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)					救出救助に係る資機材の配備																	食糧等の備蓄			
	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米
都営八幡山アパート自治会				○		○	1		1		3	17	1										自治会倉庫		○	
上北沢第一コーポラス自主防災組織				○		○			2	1	2	4	1										自治会倉庫		○	
上北沢1丁目自治会				○		○	1			2	2	15	1	1	2								自治会倉庫		○	50
八幡山町会				○		○		1			2	10		1	2	2	2						八幡山町会防災倉庫		○	
上北沢町会			○			○	2	1	1	3	1	24 (帽子型簡易タイプ)	1	1	3	3							上北沢公園資材倉庫他		○	

団体名	食糧等の備蓄													その他の 防災活動		
	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他		保管場所	備蓄品配布先
都営八幡山アパート自治会	50								6					自治会倉庫	自治会住民	
上北沢第一コーポラス自主防災組織	40	40	40					10	2	1				自治会専用倉庫	上北沢第一コーポラス605号	
上北沢1丁目自治会	○		○	50	○				1	1		1	テント(小)2 救急箱2	自治会倉庫	自治会住民	
八幡山町会	100				カレー60	5				1				八幡山町会防災倉庫		D級ポンプ点検等
上北沢町会	44		200		60		100		2	1				世田谷区上北沢5-37-18新宿木材敷地内	町会会員	

3. 上北沢地区の課題と取り組み

項目1 初期消火

■課題

- ・消防資機材(スタンドパイプ・D 型ポンプ)を使用できる人が限られている。
- ・小学生や商店街の人たちは資機材訓練をしていない。
- ・スタンドパイプを使う消火栓の場所が分からない。

■今後の取り組みの方向性

- (1)スタンドパイプの訓練を行い操作できる人材を育成していく。
 - ・消防署や防災設備業者と協力し、機材の使い方や日頃から家庭でできる防災についての講習会を実施し、防災についての意識を高める。
 - ・小学生や PTA などの若い世代の方にも初期消火の協力をいただけるよう、訓練や講習会への参加を促していく。
- (2)街路消火器の場所、スタンドパイプの配備場所・消火栓の位置などを広く周知していく。
 - ・訓練実施の際に街路消火器、スタンドパイプ、消火栓の設置場所の周知も併せて行う。
- (3)参加者に合せた日時・時間帯に防災訓練を実施していく。
 - ・多くの方に初期消火の体験する機会を増やしていけるよう、スタンドパイプや街路消火器の近くで訓練を実施する。
 - ・日頃から街路消火器をチェックする。
 - ・色々な方が参加しやすいよう、イベントを実施する際には防災資機材を活用したイベントとなるよう工夫をしていく。
- (4)日頃から家庭から火を出さない工夫をしていく。
 - ・火災の原因となる通電火災の危険性などについて、講習を通して啓発を行い防火対策への意識を高める。
 - ・家庭内や近隣で通報する人・消火する人などの役割を決めておく。
 - ・家庭用消火器や街路消火器を使用し、協力して初期消火を行う。
- (5)各家庭で消火用の物品(消火器・バケツ・ホース等)を備えておく。
 - ・各家庭でも消火器を備えていただくよう、PR や斡旋等の周知を促進していく。
 - ・各家庭で備えた消火器については定期的にチェックを行う。
- (6)災害時の危険箇所(火災・ブロック塀倒壊など)を把握し、情報共有しておく。

項目2 負傷者等の救出、救護

■課題

- ・救出・救護用の資材を備えているが、使用できる人が限られている。
- ・負傷者の救出、搬出をどのように行っていくのかわからない。
- ・若い人が少なく人手が不足している。

■今後の取り組みの方向性

(1) 町会・自治会で、安否確認や救出救助の体制を整備していく。

- ・高齢者の安否確認が必要。
- ・組織をつくるには大きな組織でやったほうがよいのか。

(2) 負傷者の救出・搬出に対応した資機材の訓練を行っていく。

- ・資機材の場所の確認・周知をする。ヤマダ電機裏の町会倉庫にリアカーはある。
- ・一般の方でも資材の場所と使い方がわかるよう、一覧表を貼るなどわかりやすくしておく。
- ・資機材操作訓練は毎年やって使える人を増やすことが大切であるため、みんなが参加できる訓練を検討していく。
- ・普通救命講習だけでなく、上級救命講習を定期的に実施し、地区内在住の誰もが救出や救護に当たれるようにする
- ・PTA、老人会、中学生、小学生等すべての人々に自分のできることを行なってもらうように、訓練を実施していく。

(3) 近隣の大学等と連携して、学生ボランティアや寮の学生を若い担い手として確保を検討していく。

- ・若い世代の担い手の確保が必要であるため、地区内及び近隣にある大学・学校との協定を結ぶ。
- ・学生を把握・指示する人が必要で、指示するリーダーの育成を検討する。
- ・地域にあるボランティア団体とも緩やかに関係性を築き、災害時には連携をとれるようにする。

(4) 地域内の商店街や事業者(工務店・介護事業者等)との協力体制を検討していく。

- ・商店街との協力体制をお願いする。
- ・まちづくりセンターで地域の各々の団体が「何が得意で何ができそうか」「代表連絡先」を確認しておく。盆おどり、さくらまつり、祭礼などを通じて顔のわかる関係をつくる。

(5) 負傷者の応急救護には、医療関係者・病院・診療所等と連携していく。

- ・一番近隣の医療救護所は芦花中学校・烏山小学校であり、医療救護所まで運ぶのは大変であるため、松沢病院や近隣の診療所協力協定を検討していく。

項目3 自助

■課題

- ・発災前から備えておくこと、発災後の行動を広く周知する必要がある。

■今後の取り組みの方向性

○各家庭において以下の内容について心がけると共に呼び掛けも行っていく。

(1)調理中の火災予防のため、台所から火を出さない工夫を行っていく。

- ・台所に消火器を設置する。
- ・自動的にガスは止まるが、揺れの方向によっては止まらない。安全に動けるようになったら、自分で火を消す。
- ・停電時は、復旧した際の火災を防止するため、ブレーカーを落とす。
- ・緊急地震速報などに反応して、油の入った鍋はシンクなど安全な場所に移す。
- ・近くにいるなら火を止める。調理中火の前から離れない。
- ・IH なら停電や鍋が離れれば、熱は止まる。
- ・自分の家からは極力火をださない。極力火を消しにいく。(マイコンメーターを信用しすぎない)

(2)家具の転倒落下によるケガや火災の発生を防ぐため、家具の転倒防止に取り組んでいく。

- ・食器棚は、力を入れないと開かないように、食器棚に牛乳パックをはさむ。
- ・食器棚のつまみ部分にゴムを8の字でかける・金具を引っ掛けるなど工夫する。
- ・食器を割れないものに変えていく。
- ・つつぱり棒、ストッパー、家具と天井の間にダンボールを入れる(空間をなくす)。
- ・転倒防止も100パーセントではないので、上まで物を積み上げない。
- ・ガラス飛散による怪我が多いので、靴を履くことを心がける。底の厚い靴を用意しておく。

(3)懐中電灯を目に付く所に備えるなど、停電時に対応できるようにしていく。

- ・ブザー付ライトの活用。携帯電話の活用。折ると光るもの。
- ・懐中電灯は、ソーラー型や防犯ブザー付のものなどを備える。
- ・太陽光電池のもの(3時間はもつ)。
- ・定期的に電池の使用・未使用の区別をする。
- ・壁に非常灯を用意する。
- ・ライトが点灯するか確認。あちこちに懐中電灯を設置しておく。

(4)災害伝言用伝言ダイヤルや災害用伝言版の活用など、各家族で安否の確認方法を決めておくことを啓発していく。

- ・両隣の家を確認する。両隣の家にいざという時に助け合える関係作りをする。

- ・避難しているとわかる目印を。子供は学校にいれば面倒見てもらえる。
- ・家族で約束事を決めておく。家族がばらばらの時の連絡手段。
- ・行く避難所をあらかじめ決めておく。外にいる時→自宅に戻る。
- ・決めた約束事を思い出せるようにしておく。町会で使用訓練をする。
- ・地域で防災の準備をチェックする日を決める。
- ・両隣と連携(安否確認)する
- ・家族の居場所がわかるように各家庭でのルールを作っておく。

(5)被害状況を確認し、どのように行動すれば判断できる訓練を実施する班制度を発展させる。

項目4 要配慮者の避難支援

■課題

- ・要配慮者は多い。
- ・応急措置で間に合わなかった怪我人、病人への対応の検討が必要である。
- ・高齢者だけでなく、障がいのある方や妊娠中の方、外国人の方への支援も必要
- ・避難行動要支援者を町会である程度把握しているが一部の人間だけであり、プライバシー保護の観点もあるが、できるだけ近所の方にも知っていただく必要がある。

■地区としての今後の取り組みの方向性

(1)避難行動要支援者支援の協定にもとづき、具体的な支援を検討していく。

- ・避難行動要支援者が求めていることと、避難支援者との気持ちにギャップがある。
- ・過度な期待をされすぎている。
- ・見守りをする人は自分で助けるのではなく、助けを呼ぶなどの役割を担えばよい。
- ・避難支援者本人だけで助けるのは困難であるが、手伝ってくれる方に避難行動要支援者の住所を教えてよいのか確認が必要。
- ・災害時どのような場合に避難行動要支援者のところに行くのか決まっていない。
- ・避難行動要支援者の連れ出し方法について、二人でも運べる方法など検討していく。

(2)町会・自治会、民生委員含めて、災害時に協力を得られるよう幅広い協力者・支援者の確保に向けた取り組みを検討していく。

- ・芦花中学校の中学生など若い力をいかに活用していくかが大切であり、協力の依頼ができるよう日頃から繋がりを作っていくことが必要。
- ・隣近所の関係を充実することが大切、町会・自治会の加入を促す。また、行政からのアプローチも必要である。
- ・避難行動要支援者と隣近所との関係がない。

- ・上北沢一丁目には、都営アパートがあり要援護者が多いが、都営アパートは町会に入っていない。
- ・近隣の大学などと連携し、学生ボランティアの確保を図る
- ・民生委員は要援護者の名簿を持っているが、町会と連携して細かい部分を詰める必要がある。
- ・社会福祉協議会の災害福祉サポーターとも連携し、一緒に支援にあたるよう検討を進めていく。

(3) 平時から避難行動要支援者と避難支援者の見える関係を築いていく。

- ・近所の日ごろからの付き合いが大切。家庭事情や病気もある程度わかる。
- ・支援者も具体的にどこまで説明していいか不明確。
- ・避難行動要支援者の見守りに行って記録はつけているが、避難行動要支援者から担当者への入院、転居、死亡等の連絡がない。

(4) 地域内の高齢者施設と避難行動要支援者支援の連携体制を整えていく。

(5) 地域の医療機関や診療所等と怪我人や病人の対応を検討していく。

- ・災害時には病院は対応できないため、町の医者に防災塾のような場に出てきてもらい、レクチャーしていただくよう協力をお願いする。
- ・行政からもアプローチが必要。
- ・防災塾で地域・病院・看護師と連携していく。

(6) 普通救命講習会などを受講して、応急手当ができる人材を育成する。

- ・普通救命講習会を行い、救命講習の受講者を増やす。
- ・普通救命講習だけでなく、上級救命講習を定期的の実施し、地区内在住の誰もが救出や救護に当たれるようにする。
- ・少しでも協力していただける人を常日頃探しておく。

4. 上北沢地区のその他の課題

項目5 安否の確認

■課題に対する意見

- ・マンションには町会に入っている人がいない。
- ・単身者用マンションに拡げるのは難しい。
- ・オートロックのマンションの住民との接点がない。
- ・PTAは、町会の会員ではない。

項目6 他団体や組織との調整

■課題に対する意見

- ・町会自治会等の一時集合場所(公園)等に行く。
- ・小学校の避難所に行って手伝いたい、自分たちの子ども達が元気なら良いが、ダメな場合はどうしたら良いか？

項目7 避難所の立上げ

■課題に対する意見

- ・避難所がどこに開設されるか知らない人がいる。
- ・若い人たちが自治会活動に関心が薄い。
- ・在宅避難者と避難所との連携がとれていない。
- ・避難所運営委員が日頃より準備、訓練をしている。

項目8 給食、給水の調達

■課題に対する意見

- ・新しい住民が多く、いろいろなことを(避難所)知らない人が多い。
- ・給水車が来ても水の運搬が困難⇒アパートの高層階など。
- ・使える井戸を把握している。

項目9 必要な物資の把握、調達

■意見

- ・在宅避難者の把握、声をどのように集めるか。
- ・備蓄品の数が少ない。
- ・避難所に防災倉庫がある。